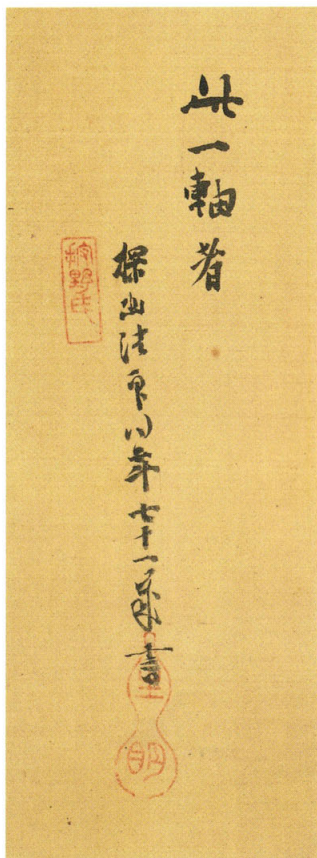




徐熙「蓮池白鷺図」



奥書

5 蓮池白鷺・藻魚・墨竹・墨梅図(「流書」)

狩野探幽 一巻

絹本墨画 江戸時代(十七世紀)  
総二八・二×五四七・六

狩野探幽(一六〇二〜七四)の作品の中に「流書(りゅうがき)」と言われる中国名画家の筆様を描き分けた図巻が数本知られているが、本図巻もそれらと同様の作品である。探幽もまた、中国画の臨模によって中国画等の伝統的な写実法を学び消化して、自らの作品に活かしていった。中国画を忠実に模写した作品を集めた「臨画帖」、忠実な模写ではなくその画風を倣古した図巻を収める「学古帖」や倣古名画巻がそれを物語る。

本作品は、巻末の奥書に「此一軸者／探幽法印行年七十一歳畫」とあり、徽宗筆「岩上鷹図」以下、九図を収めてそれぞれに印を捺す。すなわち、①徽宗筆「岩上鷹図」・「筆峯」瓢箪印、②所翁「龍図」・「春官之章」印、③牧谿流「山水図」・「董圭」印、④月山「馬図」・「思獻」印、⑤徐熙「蓮池白鷺図」・「董圭」印(但し、上下逆に押捺される)、⑥補之「墨梅図」・「宮内卿法印」印、⑦目遍「雪景山水図」・「法印生明」印で、奥書には「狩野氏」「生明」の二顆を捺す。ただ、他の倣古名画巻のように自家流の「富士図」は描かれておらず、すっかり探幽風の描写となった倣古名画である。

探幽は、このような中国画等の学習のほか、多くの写生も試みた。身近な花々を写生した「果蔬草花図巻」や精緻で見事な質感を示した「獺図」などの優れた作品を遺している。御用絵師として担った課題は実に膨大なものであったはずである。その課題を、探幽は様々な学習を怠ることなく続ける中で、こなしていった。若冲とはまた異なった意味で、探幽のパワーには驚かされることが多い。



范安仁「藻魚図」



東坡「墨竹図」



補之「墨梅図」

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections